

# 令和元年度うきたむ学講座特別講座の結果報告

## うきたむ学講座特別講座「溝で囲まれた遺跡に迫る―大南遺跡―」

1 開催日時 : 令和元年6月1日(土) 13:30-16:30

米沢史学会 2019 と共催

2 開催場所 : 山形県立米沢女子短期大学 C201 教室

3 共催・協力 : 米沢史学会、米沢市教育委員会

4 内 容

コーディネーター 吉田 歆(山形県立米沢女子短期大学)

①13:40~14:00 「大南遺跡発掘調査の成果」 佐藤 公保氏(米沢市教育委員会)

発掘担当者であった佐藤氏から調査の成果について報告があった。遺跡は古代と中世の遺構が確認されたが、古代のものは遺跡の東南部を中心に分布し、掘立柱建物跡や土坑、溝が確認され、官衙に関わる豪族集落ではないかと考えられている。遺跡のメインは幅4~8mの区画溝で囲まれた中世の遺構群で東西60m、南北110mの範囲に掘立柱建物跡50棟以上あることが確認された。遺物は区画溝を中心に出土し、堆積土の中層から底面にかけては13~16世紀前半の陶磁器や木製品が、上層からは16世紀末から17世紀、18世紀の陶磁器や木製品が出土している。祭祀遺物として出土品としては全国2例目の「木造僧形神立像」他がある。遺跡は13世紀から15世紀のこの地域の有力者の屋敷跡で仏堂などの宗教施設も伴っていたと考えられている。

②14:00~14:20 「大南遺跡の年代測定の結果」 門叶 冬樹氏(山形大学)

「僧形神立像」、「漆器椀」、柱のAMS<sup>14</sup>C年代測定を行った。結果は僧形新立像が1421-1456(95.4%)、漆器椀が1445-1520(77.4%)と1592-1620(18.0%)、ウイグルマッチングを実施した柱が1356-1388(95.4%)であった。門叶氏からは<sup>14</sup>C年代測定法の原理や方法を素人にも分かるように説明していただいた。東京以北では山形大学にだけにある測定器を多くの方に使っていただきたいとお話があった。市町村は半額の利用料金とのこと。

③14:20~14:40 「大南遺跡出土の陶磁器」 山口 博之氏(米沢女子短期大学)

大南遺跡から出土した国産、中国産の陶磁器は13~14世紀、15世紀代、16~17世紀のものがあり、それらの産地同定について詳細に説明していただいた。国内産では愛知県の瀬戸・美濃や石川県の珠洲に加え、米沢戸長里の製品もあるとのこと。中国産では龍泉窯の碗や皿、景德鎮の皿などが出土しているとのこと。大南の出土品についての解説が終わってから、中国の陶磁器の窯跡や国内でも珍重されていたことを示す絵巻などについての紹介もあり、酒田から最上川を溯り、さらに支流の天王川をへて恐らく「浅川氏」と呼ばれた屋敷と考えられる大南遺跡にもたらされたとの私見を述べられ

た。

14：40～14：55 休憩（展示遺物見学）

この間に大南遺跡出土品の解説があった。

④15：00～15：35 「大南遺跡の神像」 山下 立氏（滋賀県立安土城考古博物館）

神像の研究の第1人者の山下氏からは、まず導入として、神とは何か、神像彫刻がいかにして成立したかというお話をいただき、次ぎに数々の神像彫刻の写真を見ながら神像彫刻の展開について詳述していただいた。そして、大南遺跡から出土したものは①円頂であること、②耳が長く福耳状になる点で、可能性として①地藏菩薩(または龍樹菩薩)などの仏、②僧形神像、③高僧・祖師像に絞られること。さらに、詳細に出土地の様子や像自身を詳細に観察すると①と③の可能性は低く、拱手形という神像としてスタンダードな形であること、像背をほとんど現さないで、総体に簡略化された造形性から「僧形神像」とするのが、最も落ち着きがいいとのお話であった。

⑤13：35～15：55 質疑（報告者からのコメント、会場からの質問）

時間が不足し、質疑の時間がほとんどなかった。

⑥16：00 閉 会